

日本産業衛生学会 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会事務局
(事務局 藤木幸雄)
〒571 大阪府門真市殿島町7番6号
松下産業衛生科学センター内
TEL 06-906-1631
発行責任者(地方会長) 堀口俊一

第42回近畿地方会総会ご案内

日本産業衛生学会近畿地方会 会長 堀口 俊一

地方会総会を下記の通り開催いたします。会員各位の多数のご参加をお待ちしています。

日時 平成6年(1994)5月20日(金)午後1時30分から4時45分まで

場所 エル・おおさか(大阪府立労働センター) 6階 大会議室

総会およびシンポジウムのプログラム

総会議題

平成5年度事業活動報告および平成6年度事業活動計画について

平成5年度決算および平成6年度予算案について
地方会会則改正案の承認について

シンポジウム

テーマ「近畿の事業場を巡って」

司会 圓藤吟史(大阪市立大学・医・環境衛生学)
職場巡視をめぐる問題点について

伊藤克之(大阪労働基準局労働衛生課 主任労働衛生専門官)
小企業における作業環境管理, 作業管理の問題点

池田昌男(兵庫産業保健推進センター産業保健相談員)
作業環境測定士の視点からの職場巡視

樋上幸一(中災防・大阪労働衛生総合センター技術専門役)
産業医の視点からの職場巡視

梶屋義雄(大阪府医師会産業医部会 副会長)
(なお、このシンポジウムは日本医師会認定産業医制度における単位が認められます。産業医研修手帳をご持参下さい)

近畿地方会員以外は、総会議事には参加できません。シンポジウムの時間にあわせて御来場ください。

総会プログラム

1. 議事 午後1時~1時30分

- 1) 平成5(1993)年度事業報告および会計報告
- 2) 平成6(1994)年度事業予定および予算
- 3) 地方会会則の改正について
- 4) その他

2. シンポ 午後2時30分~4時45分

附近案内図

新大阪駅からは地下鉄御堂筋線(新大阪~淀屋橋)と京阪電鉄(淀屋橋~天満橋)
大阪駅からは地下鉄谷町線(東梅田~天満橋)が便利です



天満橋駅より徒歩で約5分です。

評議員の皆様へ

近畿地方会総会に先立ち、評議員会を開催いたします。評議員の皆様はご参加下さい。会場の都合で昼食は用意しておりませんので昼食をすましてお集まり下さい。

日時 平成6年(1994)5月20日(金)午後1時から1時30分

場所 エル・おおさか(大阪府立労働センター) 6階 大会議室

地方会研究会代表者の皆様へ

近畿地方会総会当日、シンポジウム終了後に地方会研究会代表者会議を開催いたします。代表者が参加できない場合には世話人のどなたかが参加下さるようお願いいたします。

日時 平成6年(1994)5月20日(金)午後5時から6時まで

場所 エル・おおさか(大阪府立労働センター) 3階グループ室

平成5年度 事業報告

1. 第41回近畿地方会総会（平成5年5月24日） 場所：大阪府中央労働事務所
特別講演 「大阪府における中小企業の健康管理事業について」
志岐初子・徳田和久（勤労者健康サービスセンター）
シンポジウム 「健康診断改正項目の問題点」
参加者：95名
2. 第33回近畿産業衛生学会（平成5年11月13日） 場所：奈良県立医科大学
学会長：山下節義（奈良県立医科大学）
シンポジウム 「快適職場づくりと産業保健活動」－実践的アプローチをめざして－
参加者：150名
3. 第1回評議員会（平成5年5月24日） 場所：大阪府中央労働事務所
4. 第2回評議員会（平成5年11月13日） 場所：奈良県立医科大学
5. 第1回幹事会（平成5年5月24日） 場所：大阪府中央労働事務所
6. 第2回幹事会（平成5年7月30日） 場所：JR大阪クラブ
7. 第3回幹事会（平成5年10月12日） 場所：エルおおさか
8. 第4回幹事会（平成6年2月25日） 場所：エルおおさか
9. 近畿地方会ニュース（No.14）発行（平成5年5月1日）
10. 近畿地方会ニュース（No.15）発行（平成5年7月1日）
11. 近畿地方会ニュース（No.16）発行（平成5年10月1日）
12. 近畿地方会ニュース（No.17）発行（平成6年1月1日）
13. 第8回職業性腫瘍研究会（平成5年6月12日） 参加者：15名
14. 平成5年度第1回産業看護研究会（平成5年7月5日） 参加者：35名
15. 有機溶剤中毒・産業衛生技術合同研究会（平成6年2月18日） 参加者：36名
16. じん肺研究会（平成6年3月12日）
17. 労働衛生史研究会（平成5年10月2日）
18. 第22回職業性アレルギー研究会（平成5年10月26日）
19. 第41回産業疲労・第34回頸肩腕障害合同研究会（平成6年1月22日） 参加者：51名

平成6年度 事業計画案

1. 近畿地方会ニュース（No.18）発行（平成6年5月）
2. 第1回幹事会（平成6年5月）
3. 第1回評議員会（平成6年5月）
4. 第42回近畿地方会総会（平成6年5月）
5. 近畿地方会ニュース（No.19）発行（平成6年7月）
6. 第2回幹事会（平成6年7月）
7. 近畿地方会ニュース（No.20）発行（平成6年10月）
8. 第3回幹事会（平成6年10月又は11月）
9. 第2回評議員会（平成6年11月）
10. 第33回近畿産業衛生学会 和歌山県に於いて（平成6年11月5日）
11. 近畿地方会ニュース（No.21）発行（平成7年1月）
12. 第4回幹事会（平成7年2月又は3月）

幹事会活動報告

「広報」

平成5年度(1993)活動報告

広報活動は、近畿地方会ニュースの発行、近畿地方会の研究活動成果集などの発行、その他必要な広報活動を担当することになっているが、本年度(1993.4-1994.3)は、新しい体制での出発年でもあるので近畿地方会ニュースの定期発行と内容の充実に重点をおいた。

- 1) 地方会ニュースの編集会議は、事務局員の南 勉氏と大原昭男氏にも常時参加してもらい、4月、9月、11月、3月に4回開催した。
- 2) 地方会ニュースの発行は、No.14~No.17までの4号(5/1付10面、7/1付10面、10/1付8面、1/1付10面表紙カラー頁刷り)を発行した。発行状況は順調であった。
- 3) 地方会ニュースの内容充実のために、以下のように試みを行った。
 - ①事務連絡通信にならないように会員の投稿欄(「話題欄」として)を設け、投稿を呼びかけた(評議員に順次依頼文書を送るなど)。
 - ②産業衛生学会総会や関西で実施された関連学会の内容を参加した会員に依頼して紹介してもらった。
 - ③地方会所属研究会を実施した際には、正式な活動報告・記録をニュースに掲載することを幹事会(総会)で承認してもらい、各研究会に連絡した(近畿地方会所属研究会の学術的な内容・抄録を公式な記録として残すことの確立)。
 - ④近畿産業衛生学会の座長まとめ(「産業医学」誌には掲載されていないため)の執筆を依頼し、掲載した(近畿産業衛生学会の学術的内容の紹介の定例化を図る)。
 - ⑤地方会総会資料(事業報告など)をニュースに掲載する方向で幹事会に承認を求めた(地方会総会議事内容の資料集としての機能を持たす)。

平成6年度(1994)活動計画(案)

平成6年度は、近畿地方会ニュースの紙面構成分担を学術担当幹事等にもお願いし、記事の確保をはかりつつ、ニュース内容の充実とニュース以外の広報活動を展開する予定である。

- 1) 地方会ニュースの編集会議は、年4回開催の予定。ニュース発行日の1ヶ月前に最終原稿の収集状況と紙面構成の編集会議と次号発行内容の企画会議を同時に行う。

- 2) 地方会ニュースの発行は、No.18~No.21号までの4号を5月、7月、10月、1月に各8面構成で発行の予定。
- 3) 地方会ニュースの内容充実は、各号で特集企画ができるような体制をとる。
- 4) 地方会ニュース原稿の収集体制は、投稿原稿がほとんどないこともあって、広報担当幹事だけで原稿確保に費やす労力があまりにも大きすぎるため、幹事会のなかで記事確保の協力体制を整備したい。
 - ①地方会所属研究会の活動記録や内容紹介にかかわる記事確保-学術担当幹事
 - ②近畿産業衛生学会に関する記事確保-学術担当幹事
 - ③本部「理事会」だよりにかかわる記事執筆-地方会選出理事
 - ④その他の記事-広報担当幹事
- 5) 依頼原稿執筆に対する謝礼の検討およびその予算的措置

近畿地方会所属研究会の活動について

近畿地方会に所属する8つの研究会が研究集会を開催した場合には、公式な記録を地方会ニュースに掲載することになっています。代表世話人の方は、各発表演題の抄録、まとめ等を速やかに提出していただくことになっています。また、3月の年度末には年度活動報告をまとめて提出していただくことになっています。

職業性腫瘍研究会

(文責：森永謙二)

平成5年度の職業性腫瘍研究会は1993年6月12日、大阪府立成人病センター研究所で開催された。参加者は15人で、テーマは「ディーゼル排ガス」であった。

まず、大阪市立環境科学研究所の瓦屋敏男氏が「ディーゼル排ガスの現状」と題して、自動車用ガソリン機関とディーゼル機関の比較、昭和45年以降の自動車排ガス規制と規制による汚染物質排出量の推移、ディーゼル排ガス中の多環芳香族炭化水素分析法及びその問題点、を中心に、測定現場のスライドもまじえながら報告があった。ついで、大阪市立環境科学研究所の黒田孝一氏から「ベンゾ(a)ピレン及びベンゾ(a)ピレンを含む排ガスの遺伝毒性、発がん性」と題して、ベンゾ(a)ピレンの発がん試験、短期測定法による発がん性及び遺伝毒性試験のレビューを紹介していただいた。最後に、森永が「疫学調査からみたディーゼル排ガスの発がん性の評価」と題して、これまでのディーゼル排ガス曝露者の疫学調査のレビューを紹介した。

3人の発表と討議から、ディーゼル排ガスの発がん性の評価についてまとめると、“ディーゼル排ガスの発がん

ん性の疫学調査、動物実験ともに認められるが、そのリスクは実際にヒトが受ける曝露程度では小さいものと推測され、ディーゼル排ガス中の発がん因子については、まだ解明されていない点が多い”といえる。

本研究会は他の地方会にはないユニークな研究会です。発がん物質の管理のあり方も含めて、取り上げて欲しいテーマ、物質がありましたら、世話人までご一報下さい。

じん肺研究会

世話人 坂谷 光則

平成5年4月に、当研究会の世話人が横山邦彦（前近畿中央病院副院長）から坂谷光則に交代した。

当研究会は、昭和36年以来の活動事業として最近では毎年度1回の研究会（勉強会）を例会として開催してきたので、平成5年度は平成6年3月12日に、坂谷世話人が企画担当する初めての例会として、第34回研究会を大阪葉業年金会館で開催した。

まず、3種のまれな職業性肺疾患、すなわち麻袋再生業者に見られた石綿肺の2例、貝殻加工業者に見られた肺線維症の1例およびアルミニウム肺の7例の報告があり、特別講演として、岐阜県産業保健センター理事の加藤保夫診療所長による“美濃焼産地における窯業じん肺の現況”の講演（座長：森永謙二、大阪成人病センター調査部主査）があった。経験することの希なじん肺およびそれに類する肺線維症の実例、および、近畿地区ではまれな職業性じん肺の発生状況について詳しく報告と講義を受け、会員の知識向上に裨益するところが多かった。

平成6年度の研究会例会は、最近話題になっている、“不整形陰影を呈する珪肺”をテーマに、非じん肺性肺線維症と思われたがじん肺であった症例、および肺線維症をきたしたじん肺（とくに珪肺）症例の報告および、関連する特別講演を計画中である。

有機溶剤中毒研究会

世話人 杉本 寛治

平成5年度の当研究会を、産業衛生技術研究会と合同で、平成6年2月18日に市立労働会館（アピオ大阪）にて開催した。当日のテーマなどは以下のとおりである。

主 題 最近の有機溶剤曝露の問題点

- 話題提供
- (1) 産業医の立場から 杉本寛治
 - (2) 産業保健の立場から 中村俊子
 - (3) 分析の立場から 鶴飼博彦
 - (4) 行政の立場から 柏 洋一

会 会 宮下和久、寺本敬子

参加者数約30名。久しぶりのことで、討議も活発に行なわれた。今後の当研究会の活動のあり方についての議

論を行なう予定であったが、残念ながら時間がなく出来なかった。

平成6年度の活動予定については現在のところ決めていないが、平成7年2月頃に研究会を開催したい。意見（研究会のあり方）、希望（開催曜日時間など）、アイデア（テーマ、話題など）を世話人まで連絡されたい。

産業看護研究会

世話人 吉田 靖子

◇平成5年度の事業報告

平成5年度は、テーマとして肝疾患をとりあげ下記の2回の研究会を開催しました。

(1) 第1回 産業看護研究会

日 時：1993. 7. 3（土）13：00～16：00

場 所：JR安倍乃荘

テーマ：1）講演『肝疾患の最新情報－C型肝炎を中心に』

講師 房本英之先生

大阪大学第2内科助教授

2）「産業看護部会活動－現状報告」

参加者：35名

(2) 第2回 産業看護研究会

日 時：1994. 3. 6（土）13：30～16：30

場 所：NTT大阪内本町会館

テーマ：1）『肝機能検査有所見者に対する看護職のかかわり』－保健指導の問題点－

2）「産業看護部会活動－経過報告」

参加者：40名

◇平成6年度の活動方針として

1. 産業看護の専門性についての討議・検討・学習の機会提供

2. 産業看護部活動の意義の徹底と産業看護部会入会の推進

をかかげ、内容を具体化していきたいと思えます。

産業看護職がかかえる多様なニーズを少しでも反映した研究会を開催していきたいと考えています。また会員が積極的な意見をどしどし出していくことにより産業看護研究会の発展が望めるものと思えます。



頸肩腕障害研究会

世話人 菰池 義彦

地方会後援主催による第34回頸肩腕障害研究会は前夜に珍しく積雪約10cmのあった京都の同志社大学今出川校舎寧静館5階会議室に於いて、平成6年1月22日(土)午前10時半から第41回産業疲労研究会と合同で、約70名の会員参加を得て開催された。詳細報告は疲労研の近藤雄二幹事(天理大学)の方が適当と思うが、丁度二カ月後の岡山大学に於ける第67回産衛学会の総会・評議員会資料17頁に締切の都合で、プログラムだけ掲載されているので転載したい。

午前は埴田和史(滋賀医大)の司会で、横田敏勝教授(滋賀医大・第一生理)による筋肉痛の生理に関する特別講演があり、難しい内容をスライドを作って本当に平易に解説された。午後は始め中石仁(日本予防医学協会)の司会で、介護施設に於ける介護支援機器の導入と作業負担の軽減(瀬尾明彦: 広大医公衛), 富士通のエルゴノミクス(落合孝則, 岩崎昭浩: 富士通), タバコ包装作業の肩部負担(鶴見邦夫ら: 名市大医衛)。続いて前原直樹(労研)の司会で、快適職場評価システムの検討(宮尾克: 名大医公衛), 手話通訳者の労働実態を生活時間調査から(北原照代ら: 滋賀医大), 労働者の過労概念の検討(斎藤良夫: 中大文心理)等, 東京から来られた小木和孝労研新所長も加わり、予定の時間を1時間超過した「いつもの」口角泡の議論に花が咲いた。

過去20年、頸肩腕障害研の世話人: 北大, 教育の福地保馬教授, 労働衛生協会の北山孝允理事長, 及び還暦定年退職寸前の菰池義彦(住友病院, 文責)に代わり, 新進気鋭の若々しい中石仁(日本予防医学協会東京本部)と埴田和史(滋賀医大)の両先生に、一年間協力の末、

バトンタッチ(交替)された。

関西地方は職業病の宝庫と考えている。丁度25年前の昭和44年7月11日に京都工場保健会で開催された地方会主催第1回「事務機械作業等健康管理研究会」が本研究会の母体であり、昭和46年4月3日に東京の九段会館で本学会の第1回頸肩腕症候群委員会として呱呱の声を上げ、三年間心血を注いだ検討の結果、「職業性頸肩腕障害」なる概念の定義、疾病分類、視触診手技、健康管理と作業管理の区分、事後措置等を内外に提案して解散した。49年3月29日の第1回合同研究会に移行後、20年間に35回の手弁当的な勉強会を精力的に続けて来た。

但し、地方会活性化の方針に従い、頸肩腕障害研究会は既に昨年その大任を終えて腰痛研究会と合併し、「職業性筋骨格系障害」研究会(会長: 関西医大 徳永力雄教授)と改名されて存続しているのは皆様御承知の通りである。

職業性筋骨格系障害研究会

世話人 車谷典男

平成5年度は、頸肩腕障害研究会と腰痛研究会を合併して、職業性筋骨格系障害研究会として再発足いたしました。世話人構成などに手間取り、研究集会は開催できませんでしたでしたが、この4月に世話人が決まり、平成6年度から、研究集会を開催する予定です。世話人は、車谷典男(奈良医科大学・公衆衛生), 近藤雄二(天理大学), 埴田和史(滋賀医科大学・予防医学)の3人です。研究会の連絡先および運営に関する要望等は世話人代表の車谷まで問い合わせ下さい。(奈良県橿原市四条町840, 奈良医大・公衆衛生)

日本産業衛生学会所属研究会の補助制度について

近畿地方会の会員が担当になり、日本産業衛生学会に所属する研究会の全国集会を近畿地方で開催する際、担当会員が希望し申請すれば、近畿地方会から補助を受けることができます。申請にあたっては担当する近畿地方会の会員名が付記された研究会プログラムを事務局へ提出下さい。なお、研究会開催後は、研究会の報告を提出する義務が伴います。この報告は、近畿地方会ニュースに掲載し参加できなかった会員にその内容を紹介するためのものです。

第22回 日本産業衛生学会 職業性アレルギー研究会

森本兼彙(阪大環医)

1993年10月26日、大阪の千里阪急ホテルで開催された(参加者40名)。

まず特別講演として北村幸彦・阪大病理学教授より「マスト細胞と好塩基球の分化制御」と題して、アレルギーの基礎的理解に関して動物モデル(マスト細胞欠損マウス)を用いた研究結果について精密な議論が行われた。

次いで一般講演(座長: 実成文彦・香川医大人間環医)として、「FV波形解析による気道アレルギーのスクリーニング可能性」(目黒忠道他・近大衛生), 「イソアネート取り扱い前におけるパッチテストの成績」(庄司昭伸・大阪回生病院皮膚科, 圓藤吟史・大阪市大環境衛生, 堀口俊一・中災防大阪セ), 「美容従事者の職業性皮膚障害—文献レビューの紹介—」(西谷宣雄, 原一郎・大阪勤労者健康サービスセ)の3題が報告された。

次に「アレルギー反応—機構と意味—」と題してシン

ポジウム（座長：島正吾・藤田保健衛生大）が行われ、「HLA分子による抗原ペプチドの提示」（西村泰治・熊大免疫制御）、「アレルギー反応におけるライフスタイルと遺伝素因」（白川太郎・阪大環医・オックスフォード大）、「TDIアレルギーへのアプローチと今後の展望」（田中健一・京都工場保健会）、「イソシアート曝露作業の健康影響」（大前和幸・慶大衛生公衛）の4つの報告があった。実験医学および予防医学的な立場からアレルギー研究の最先端に関する白熱した議論が展開された。

この研究会については抄録集を作成しておりますので御希望の方にはお送りいたします。（連絡先：〒565 吹田市山田丘2-2 大阪大学医学部環境医学教室 竹下達也 TEL 06-879-3922 FAX 06-879-3923 なるべくFAXにて御連絡ください）

第41回産業疲労研究会・第34回頸肩腕障害研究会 合同研究会報告

埴田和史（滋賀医科大学・予防医学）
近藤雄二（天理大学）

近畿地方会の援助のもとに産業疲労と頸肩腕障害の合同研究会を京都で開催しました。特別報告と一般発表が行われました。

特別講演は、「痛み」に関する世界的な研究者である滋賀医科大学第一生理学講座の横田敏勝教授を招いて「筋肉痛の生理」と題した教育講演をいただきました。

「痛み」は人間が自覚する感覚の中で最も疾患に直結している感覚であり、自覚する患者のみならず家族や治療に当たる医療人を苦しめる。「痛み」と言っても、「痛み」を生じる身体部位や「痛み」の原因によって、様々な種類がありその機序が解明され出での歴史はそう古いものではない。「痛み」が人の心を不安定にし、逆に不安な心が「痛み」に対する感受性を高めることは日常的によく経験することであるが、高次の神経機能と「痛み」の関連が明らかにされ始めたのも近年のことである。

その中でも筋肉痛は、それを主たる自覚症状の一つとして、診断や治療に当たる頸肩腕障害はもとより、疲労

と関連した身体症状としても産業医学領域でもしばしば問題にされている。横田教授の話は、痛みの発生と伝達に関する基礎的な話に始まり、筋収縮の中でも生体にとって障害の原因として大きい役割を占める伸張性収縮の機序について、日常の仕事にかかわる動作や運動を例に説明された。そして、原因を特定できない慢性骨格筋痛症候群として、原発性繊維筋肉痛と筋・筋膜症候群について説明された。痛みが筋反射、交感神経反射を介して様々な症状を引き起こすことや、情動不安と肩こりの関係など日頃の経験を生理学的に解説していただき、90分の講演時間はあまりにも短かった。

講演終了後、横田教授の話の中で「古い時代であっても、欧米の疾患に関する記載は非常にきめ細かいため、その時代には医学的に意味が不明であった症状が現代の医学に意味をもつことがある。しかし、日本の症状に関する記載は不十分であるために役立たないことが多い。」と述べられていた。産業医学領域で出会う疾患の中には、その時代の臨床医学の到達点で十分に説明しきれないものもある。せめて、正確な医学的記載を残し、事例として積み重ねていくことが必要なのだと、「痛み」の研究の歴史からも学んだ次第である。

大阪で開かれた第37回労働衛生史研究会

水野 洋（大阪府立労働衛生事務所）

昨93年10月2日（土）午後、大阪府立労働センターで、労働衛生史研究会（世話人：三浦豊彦、野村茂）が開かれた。近畿地区でもすでに数回開催されているが、今回は水野と原一郎の両名が現地世話役を務め、主題として『梶原三郎先生と（労働）衛生学』としたが、それとかわり「大阪の労働衛生史・概説」（水野）と「助川浩先生の実務労働衛生学」（東田敏夫）を報告していただいた。主題については小川捨雄、三浦武夫、丸山博の三氏に語っていただく予定だったが、丸山氏は急病入院で欠席となったが、三浦先生の大熱弁で時間はそれでも不足した。当日報告についてはすでに『産業医学』（36/1/94）の39～40頁に掲載されているので省略する。

産業看護研究会

平成5年度第2回研究会報告

日時：1994. 3. 6（土）13：30～16：30 出席40名
議題：「肝機能検査所見者に対する看護職のかかわり」
—保健指導の問題点—

今回は、第1回研究会「肝疾患の最新情報」の講義をふまえ、事例3題を各グループ1題討議、各グループから討議内容発表後、全員で意見交換し、それぞれ今後の

看護活動に生かせ得るものを持って散会した。

討議内容の要旨は、次の通り。

- 1) アルコール性肝炎：今後どの様に継続フォローするか。
 - 目標は禁酒の実行・問題点を明確化する（生活面、精神面、現在のアプローチの方法）
 - 対策①疾病への姿勢を明確にする②社会的資源の活用（サークル・趣味・断酒会等）③カウンセリング④医療機関との連携を密にする
- 2) 脂肪肝：生活管理（運動含む）にどの様に開くか。

- 問題点(食事の偏り, 病気の認識少, 管理解除による悪化例あり)
- 対策①自己決定して行動変容させる面接技術の習得
②個人指導と集団指導を取入れコーディネーターの役割を担う③家族との関わりを持つ④病気というマイナスイメージをプラスにする。
- 3) 慢性肝炎: 主治医との連携をどの様にフォローするか。
- 問題点①医師連絡の対応(主治医=産業医, 主治医=関連病院の医師, 主治医=全く別の病院の医師)②守秘義務(主治医連絡用文書は本人に持参させる・返事も本人に持参させる・本人との信頼関係を保ち, かつ主治医, 産業医との連携が必要)③就職時に必要なシステム作り(就業時の受入れ場所の現状を主治医に具体的に伝え指示を受ける)④家族との関わりは看護職の立場で異なる。(文責 岡田)

有機溶剤中毒・産業衛生技術合同研究会に参加して

岡田 洋子(大阪労働衛生総合センター)

今回の有機溶剤中毒研究会は, 産業医, 産業保健, 分析, 行政の4つの立場から, それぞれ一人ずつスライドや資料を使って話題を提供するという形式で行なわれた。

最初に杉本寛治氏は有機溶剤曝露の問題点を, 1. 自覚症状調査の取り扱い, 2. 生物学的にモニタリングの運用, 3. 作業主任者に対する教育の3点にわけて資料により解説された。

次に中村俊子氏は, 実際に行なわれている有機溶剤健康診断の手順や方法を説明され, その中で, 2種類の塩素系溶剤(テトラクロルエチレン, トリクロルエチレン)が同じ建物の中の違う作業場で使用されていたが, 作業場上部は仕切がなかったため作業者が混合曝露を受けていたという事例や, 実際には使用されていない溶剤の代謝物を検査する場合があることなどを報告された。

さらに鶴飼博彦氏は, 分析に関する問題点を代謝物ごとに一覧表にしたものや, 分析依頼を受けた検体の採尿

時期を調査したグラフを示され, 有機溶剤健康診断時の採尿が必ずしも作業終了後に行われていないと報告された。

最後に柏洋一氏は, 過去数年間の全国および大阪における有機溶剤健康診断の統計資料を示された。その中で, 肝機能検査の有所見率が他の検査項目のそれよりも増加していることを報告された。

続いて行われた自由討論では, 自覚症状聴取における腹痛の意義, トルエンの許容濃度が100ppmから50ppmに引き下げられた場合, 曝露指標として馬尿酸の測定が有用であるかどうか, 尿中代謝物の検査で分布3になった作業者の管理をどのようにしていくかなど, 様々な意見や質問が出された。

また尿中, 血液中の溶剤を直接測定することによって代謝物が同じ溶剤でも, 溶剤曝露の評価ができるとの意見も出た。しかし, 問題点として尿および血液のどちらを用いるのがよいかという質問に対し, 中村氏が作業者自身がいつでも採取できるという点から尿の方がよいと述べられたのに対して, 鶴飼氏は採取後に気中溶剤混入の可能性の少ない血液の方がよいと答えられるなど, 興味深い討論が展開された。

今回, この研究会に参加して有機溶剤曝露における管理方法(健康診断, モニタリング等)には, まだ数多くの問題点があり, このような研究会の場で意見, 情報を交換する必要性を改めて感じた。

第34回近畿産業衛生学会のご案内(第1報)

日時:平成6年11月5日(土)

会場:住友金属工業株式会社 和歌山製鉄所
PRセンター

(懇親会会場:住友金属 保険会館)

会長:住友金属工業株式会社 和歌山製鉄所

労務部健康管理センター センター長 茂原 治

連絡先:同上

〒640 和歌山市湊1850番地, TEL (0734) 51-3398

FAX (0734) 51-3438

関連学会のご案内

学 会 名	開催日および開催場所	連 絡 先
International Symposium on Human Health and Environment	25-30 September 1994 Salsomaggiore Terme(Parma), Italy	京都大学 医学部公衆衛生学教室 池田正之 TEL 075-753-4460
THE 14TH ASIAN CONFERENCE ON OCCUPATIONAL HEALTH	15-17 October, 1994 Beiji, Cina	北海道大学 医学部衛生学教室 斎藤 和雄 TEL 011-716-2111
地域・職域・医療現場の保健指導者のための ・成人病の健康教育学習ワークショップ	1994年8月25-27日 滋賀県 滋賀医科大学	滋賀医科大学 福祉保健医学講座 上島弘嗣 TEL 0775-48-2191

第4回幹事会記録

日 時：平成6年2月25日（金）

時 間：13：30～16：10

場 所：エルおおさか 603号室

出席者：堀口、藤木、圓藤、徳永、小泉、河合、近藤、
中野、宮上、岡田、埴田、

欠席者：原田、上田、樹屋

事務局：南、大原

I. 報 告

1. 理事会報告
2. 活動報告
平成5年度広報活動報告……近藤幹事より
3. 平成5年度事業活動並びに平成5年度決算見込み報告……藤木幹事より

II. 議題

1. 活動計画
 - (1) 平成6年度予算案……藤木幹事より
 - (2) 平成6年度事業活動計画……藤木幹事より
 - (3) 平成6年度広報活動計画……近藤幹事より
 - (4) 平成6年度学術活動計画……徳永幹事より
2. 総会の開催日、場所、特別講演の演題及び講師の決定について
3. 労働衛生関連法制度委員会の近畿地方会選出委員の委嘱について

現在、平田 衛（府立公衆衛生研究所）先生と田中健一（京都工場保健会）先生であるが、田中健一先生が辞任したいとの申し出があった。

宮上 浩史（松下産業衛生科学センター）が労働衛生関連法制度委員として承認された。

4. 名誉会員の推薦について

事務局からのお願い

1. 地方会費納入のお願い
 - 1) 地方会費は2,000円です。郵便局から払い込んで下さい。口座番号は大阪8-120808, 加入者名：日本産業衛生学会近畿地方会。
 - 2) 払い込み人と会員名が異なるときは、必ず通信欄（裏）に会員名と会員番号をご記入下さい。ご記入のない場合は、送金されても会員名不記載のため送金された人の会費とはなりませんのでご注意ください。
 - 3) 経費節約のため、領収は郵便局の領収印にてご確認いただき、事務局からの送付は省略させていただきます。
 - 4) 学会当日地方会費を受け付けております。（地方会からの領収書を発行しますのでご利用ください）。

2. 事務局へご提案、ご意見、お問い合わせや連絡等は必ず文書でお願いします。

3. 地方会ニュース送付

あて名タグの敬称を先生から様へ変更しました。

会員番号制を導入しました（事務処理の簡素化を目的としてあいうえお順に番号を割り振りました）。

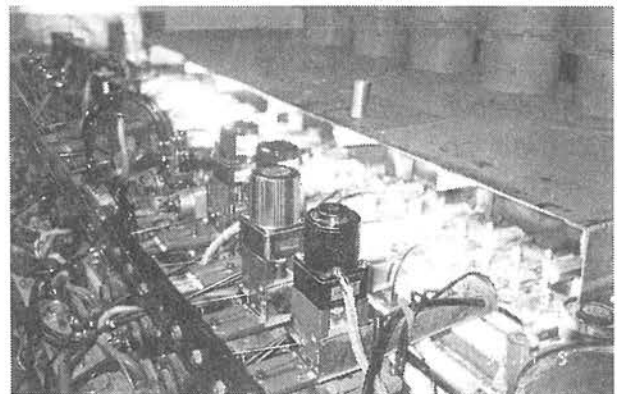
— 夢のような耳寄りな話 —

【アクティブノイズコントロール】

（アクティブ騒音制御）

耳で感じる不快な音を、一般的に騒音と呼んでいます。この騒音を音で軽減しようとするのが、アクティブノイズコントロールです。騒音（音）と位相が逆の音を合わせて騒音を低減しようとする試みです。理論的には相当に古くから考えられていましたが、実用化にまでは至っていませんでした。

この原理を応用したアクティブノイズコントローラーが最近発売されました。外見はステレオのヘッドホンとまったく同じです。定常的な騒音に対しては、ある程度の効果が期待できますが、プレスのように間欠的な騒音に対してはあまり効果がありません。今後は、プレスのように間欠的な騒音にも対応できる装置の開発が望まれます。



メタリコン（自動）金属の溶射

編集後記

本号は、近畿地方会の総会特集としました。従来は総会の案内だけにとどめていましたが、事業活動報告や新年度の事業計画なども掲載して、事前に会員の皆様に周知していただけるように、また記録として保存できるようにと配慮したものです。

編集・企画担当者

（広報担当幹事・事務局員）

武田真太郎、近藤雄二、上田美代子、河合俊夫

宮上浩史、中野碩夫、南 勉、大原昭男

次回発行日 1994年7月1日

次号原稿締切日 1994年6月15日